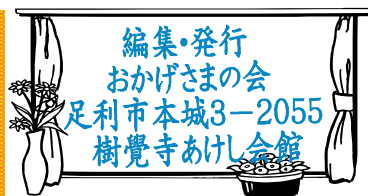


おかげさま



今^{いま}も

暑い夏、日本の中での最高気温を記録している町、館林市のお隣の町であっても、大きな川があるおかげさまなのか2℃ほどは低いようです。でも近年猛暑のように思います。熱中症という言葉も、夏の代名詞のようになりました。気をつけねばなりません。

お盆が来ると聞くと、子どもの頃は亡くなった身内が家に戻ってきて、会えると思っていました。お盆の間だけ家の中のどこかで見ていると何となく緊張しました。祖母は厳しい人だったと聴いていたので、いいかげんなことをしていると、仏さんに怒られるような気がしました。そんな仏さまの仲間に、父母、母の伯父叔母が入り、会いたい思いと、話がしたいとちょっぴり淋しさを感じます。

◆
ご縁をいただいて親しくさせていただいたご門徒さんとのお別れも重なり、淋しさと、自分の年齢も再認識しています。

お別れは、頭では解っていても淋しいものですね。阿彌陀さまのお話、ご法話をいただき、ご教示いただいた和上さまとのお別れもひとしおでした。ご縁をいただけたことの有難さでいっぱいです。

お法りのなかに生きていくということは、このような生き方なんだとおすがたからもお示しいただきました。私をすべて、阿彌陀さまにお預けして、お聞きし、そのなかに身を置き生きていく。楽しい時も、苦しい辛い時も、病気になっても怪我をしても、「そんなこともありますよ。生きていくということです。何があっても、なるようになりますよ。すべてお任せして、からだのことならお医者さま、心



梯 實圓 和上

のことも病気ならお医者さま、わたしの生きていく道、拠りどころは阿彌陀さまだけ、すべて阿彌陀さまにおたずねお任せして歩ませていただきます」

「それがお念仏に生きるということですよ」とおっしゃっていました。

素直に生かさせていただき、亡くなる時がきた時は、阿彌陀さまがこんな私でもお浄土にお呼びくださるとおっしゃってくださるので、

「さいですか有り難いことだと参らせていただきます。」と常日頃おっしゃっておられました。

ですから、ご自分のお身体を骨折されても、風邪をひかれてお辛くても、動くことができる身であったら、まわりの方々が心配されても、

「私は出かけます。皆さんが待っていてくださいます。」とお出かけくださっておられました。

でも病院へは検診や、診察はきちんとされ、身体の管理をお医者さまにお任せしていらしたようです。細くて華奢なお身体の先生でしたが、気丈夫な先生でした。ご法話、ご講義をされているおすがたは、いつもお法への歓喜に満ち溢れ、3時間ほどのお話があつという間に感じられ、お話をいただくのがいつも楽しみでした。

いつも穏やかな優しいお顔で、お応えくださり温かな表情そのままに、専門はもちろんあらゆる分野の知識をお持ちで、解らない事はないのではないかと思われる“生きた事典”のような先生でした。ご自分には厳しかったのですが、ご息子さんは叱られたとのことですが、他の方は誰一人怒られたことはなかったそうです。奥様の坊守さまも一度も咎められたことはなかったとのことです。

もう何時間生きていられるか解らぬ状態になられて、身体がどれほど辛いと思われる中、

明 石 狸

宮尾節子さんの詩です。そうです、準備は着々と進められています。

明日戦争がはじまる
まいにち
満員電車に乗って
人を人とも
思わなくなった

インターネットの
掲示板のカキコミで
心を心とも
思わなくなった

虐待死や
自殺のひんばつに
命を命と
思わなくなった

じゅんぴ
は
ばっちりだ

戦争を戦争と
思わなくなるために
いよいよ
明日戦争がはじまる

南無の心を忘れた時、
恐ろしい世の始まりだ

それまでも一度も辛そうなお顔はされることなく、声を出すこともやつのこととなられ、坊守さまが脇で「いままで楽しいことばかりでしたね」と声をかけられたら、先生は「今も」と穏やかに答えられたそうです。それが最後のお言葉だったとのこと。

「今も」そのお言葉に先生の生きてきたおすがたがすべて凝縮されていると、合掌お礼のみでした。阿彌陀さまにお任せして、日々をおくるということは、こういうことであつたとお示しいただきました。このお言葉を、心に銘じて生かさせていただこうと思います。最後の最後に「今も」と言えるような、有り難かった、楽しかったと言ふことができるように。

爺 婆 孫 孫

我が家の孫は、麺が大好き。特にソウメンが大好きです。兵庫県産、奈良県産、特に産地にはこだわりません。何故なら、違いを理解していない



からでしょうね。大人気の食べ方は、「流しそうめん」あるいは「そうめん流し」、この夏にデビューしたばかりです。

その昔、父親が竹藪から竹を切り出してきて2つ割りにし、庭でソウメンを流して食べた記憶がただ一度。竹の樋は安定しないし、水量も問題、無事逃げ遂せたソウメン君を逃さないようにとこの最後に、ザルで受ける仕掛けも大変、水の後始末もこれまた大変。一回で懲りたんじゃないかな。

竹の樋は研究課題として、卓上ぐるぐるそうめん流しデビュー！！流石に、7歳と5歳の2人はソウメンと一緒に流れているミニトマトを箸でとって大喜び。2歳の孫は、それでも練習箸で結構上手に麺をす



くっていた。後日、もう一人の2歳の孫が来た時は、競争で麺をお椀に、食べる分だけ取りなさいの声などどこ吹く風、とるのが楽しいんですね。外で蚊に刺されながら、竹の樋で大騒ぎは何時かな。





あけし あれこれ

ヤブラン (藪蘭)

この頃数が少なくなってしまったように思うが、ランと名がついているように、花が咲くと植え込みの中で遠慮がちにすくと立った姿は、可愛いらしくもあり、爽やかだ。葉はシュンランとよく



似て細長く、濃緑色で艶

があり、葉姿がよいため昔からよく庭木の
下草として庭植えにされてきた。

夏が訪れると株元から細い花茎を伸ばし、藤紫色の小花を細長い花穂に綴り、庭木の木陰に映えて意外に美しい。根を掘り上げると、根先の方が肥大して、落花生形の球根が

出来ている。これを陰干ししたものが、「麦門冬 (ばくもんとう)」と称して、去痰鎮咳や強壯薬として用いられるが、麦門冬の名はジャノヒゲのことで、生薬としては、本物はジャノヒゲの塊根を干したものらしい。

ヤブランの方は品質が劣るため、土麦冬 (どばくとう) ということ。花の後に、黒光りする球果が出来る。

